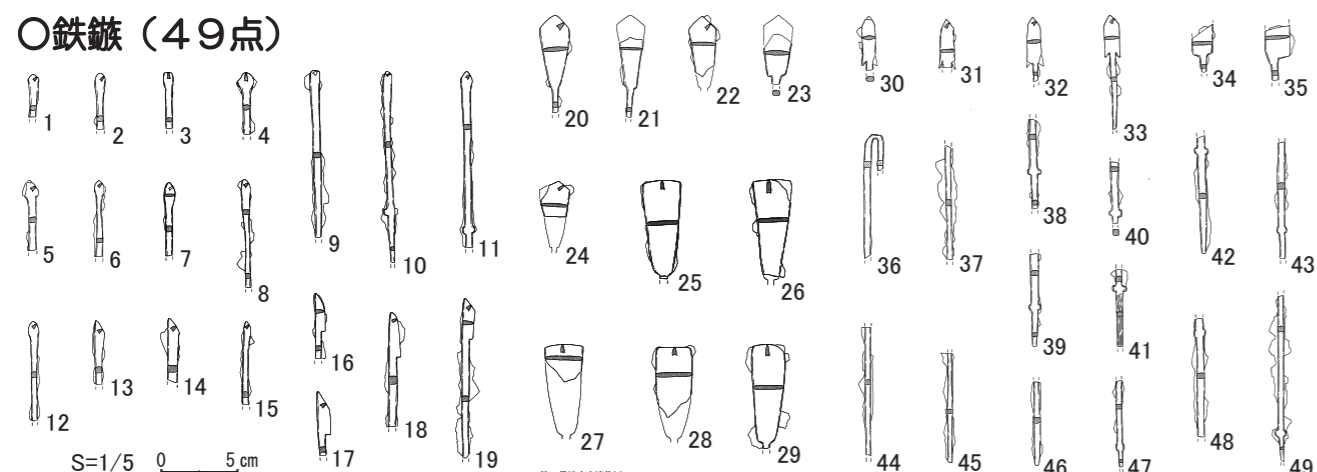


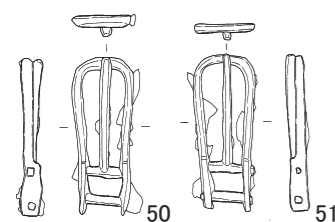
○鉄鏃（49点）



1～12：細根型・鏃箭鏃 13～19：細根型・片刃箭鏃 20～24：平根型・圭頭鏃
25～29：平根型・方頭鏃 30～33：細根型・柳葉鏃 34・35：細根型・長頭鏃（推定）

○馬具

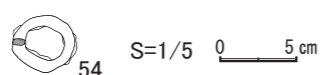
①鉄製絞具（2点）



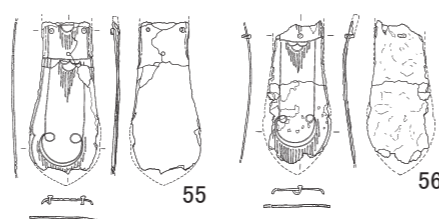
②鉄製絞具の輪金（2点）



③鉄製責金具（推定）（1点）

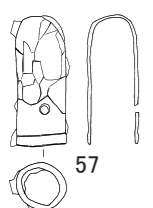


④金銅製杏葉（2点）



○鉄製刀装具

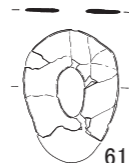
①円頭柄頭（1点）



②足金物（推定）④鋤（1点）



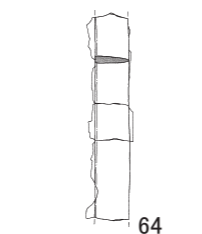
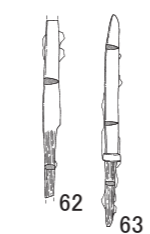
⑤鏝（1点）



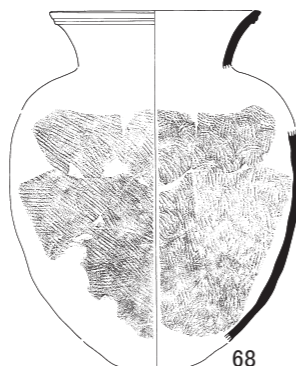
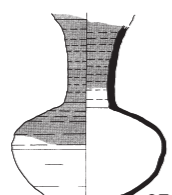
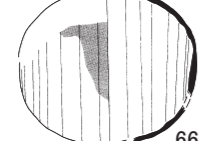
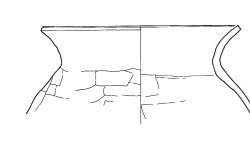
③鞆口金具または責金具（1点）



○刀子（2点） ○大刀（1点）



○土器（4点）



65：土師器甕
66：須恵器横瓶
67：須恵器長頸瓶
68：須恵器大甕

立野古墳群は、本古墳群の北側に所在する深谷市百済木遺跡を拠点とする古代男衾郡の首長らの墓域とも考えられています。第12号墳出土遺物のうち、金銅製杏葉は、鏝で細い線を刻む毛彫という技法で唐草文様などが描かれた県内唯一の事例であり、他の出土遺物も含め、東国における古墳時代末の歴史や文化を語る上で必要不可欠なものであることから一括して指定されました。

令和3年度熊谷市新指定文化財 有形文化財・考古資料

『中西遺跡出土遺物』 『立野古墳群第12号墳出土遺物』



会期：令和4年5月30日（月）～7月11日（月） 会場：熊谷市立江南文化財センター展示室
令和4年7月13日（水）～9月11日（日） 会場：くまびあ創作展示棟3階出土遺物展示室
令和4年9月13日（火）～11月6日（日） 会場：熊谷市立熊谷図書館3階郷土資料展示室

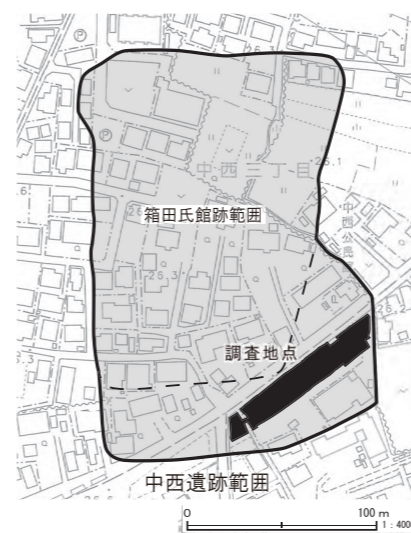
このたび、『中西遺跡出土遺物』及び『立野古墳群第12号墳出土遺物』が令和4年3月31日付けで市の有形文化財・考古資料に指定されました。これらの出土遺物は、本市のみならず、東日本の原始・古代を研究する上で大変優れた史料です。

今回の展示では、文化財指定を記念して、両遺跡の出土遺物をご紹介します。

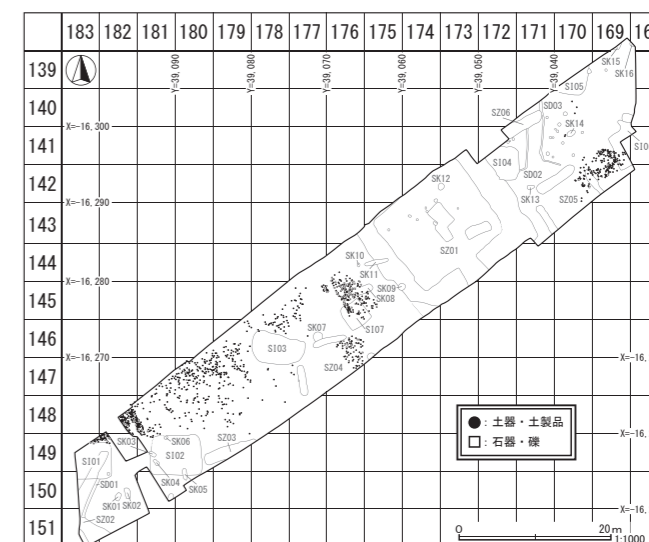
◎『中西遺跡出土遺物』

中西四丁目に所在する中西遺跡は、標高約24mを測る新期荒川扇状地扇端部に立地しています。発掘調査は、県道熊谷羽生線の拡幅工事に伴い、2011（平成23）年1～3月、2012（平成24）年1～3月、2013（平成25）年2～3月の3回にわたって行われ、縄文時代後期から弥生時代中期、古墳時代前期、奈良・平安時代まで続く複合遺跡であることが判明しました。中でも縄文時代は、後・晩期の遺構（竪穴建物跡・土坑など）や遺物包含層から土器や石器、土偶などの遺物が大量に出土しました。

数ある縄文時代後・晩期の遺物のうち、このたび指定されたのは、土偶51点、土偶や土器に施す赤彩の原材料である辰砂と呼ばれる鉱物片22点、赤彩を施す際に使用されたとと思われるパレット状土器1点の計74点です。



中西遺跡位置図



中西遺跡調査区全測図

令和4年5月30日発行

編集・発行 熊谷市立江南文化財センター（熊谷市教育委員会 社会教育課 文化財保護係）

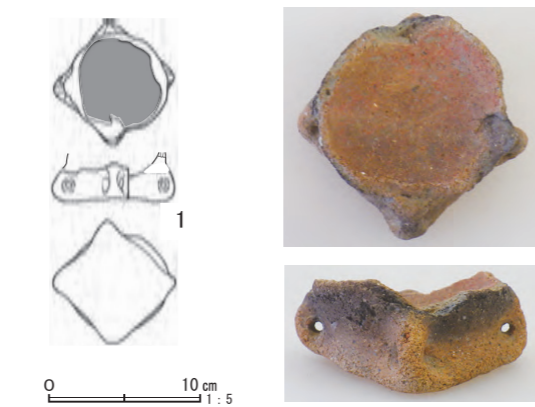
○土偶 (51点)



○辰砂 (22点)



○パレット状土器 (1点)

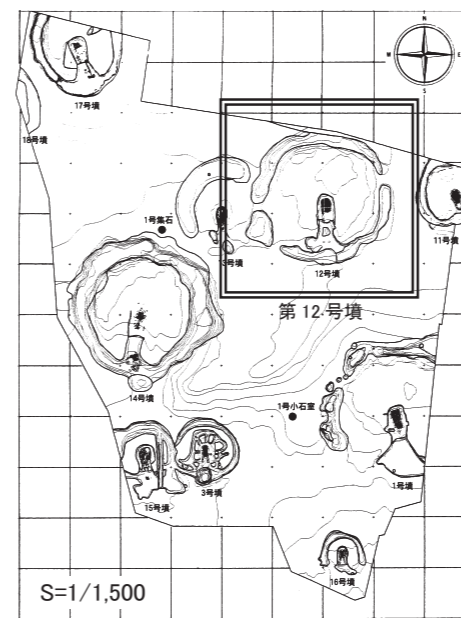


土偶は、竪穴建物跡出土が3点、遺物包含層出土が38点、残りの9点は遺構外ないし後世の遺構から出土しました。時期別内訳は、加曾利 B 3 式期を含む後期中葉が 10 点 (1・2・4~11)、続く高井東式 (曾谷式) 期が 35 点 (3・12~45)、安行 2 式期の後期後葉が 1 点 (48)、安行 3 a 式期の晩期前葉が 1 点 (47)、安行 3 d 式期の晩期中葉が 2 点 (50・51) であり、時期を特定できない 2 点 (46・49) も上記の時期におさまるものです。このうち、高井東式 (曾谷式) 期の土偶は、県内でも突出した出土数であり、出土した土偶すべてに東北系の要素 (遮光器系) がみられないのが特徴です。また、高井東式 (曾谷式) 期から安行式期には、赤彩が施されるものが多くみられ、赤彩に関連する辰砂 22 点とパレット状土器 1 点 (ともに遺物包含層出土。) も含め、その出土には重要な意味を持つことから、これらの遺物が指定されました。

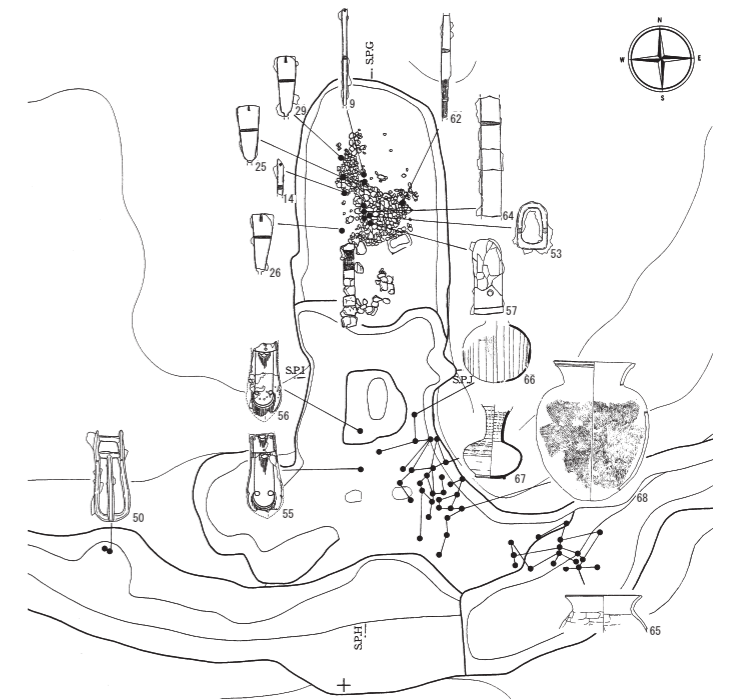
◎『立野古墳群第 12 号墳出土遺物』

板井に所在する立野古墳群は、和田川左岸の標高約 70 m を測る江南台地に立地する古墳時代末に築造された群集墳です。出土遺物が指定された第 12 号墳を含む 10 基の円墳は、現在の江南総合公園造成工事に伴い、2002 (平成 14) 年 10 月から 2003 (平成 15) 年 1 月まで発掘調査が行われました。

第 12 号墳は、直径 21.5 m の円墳であり、主体部は凝灰岩の切石で構築された横穴式石室です。石室玄室から前庭部にかけて多数の副葬品が出土しており、鉄鍬、馬具 (鉄製鉸具、鉄製鉸具の輪金、貴金具 (推定)、金銅製杏葉)、鉄製刀装具 (円頭柄頭、足金物 (推定)、鋤、鞘口金具または貴金具 (推定)、鏝)、刀子、大刀、土器 (土師器・須恵器) が一括して指定されました。



立野古墳群古墳分布図



立野古墳群第 12 号墳遺物分布図